

保育かながわ

発行所

横浜市神奈川区沢渡4の2

一般社団法人

神奈川県保育会

発行人

都 築 融 光

題字

故 内 山 岩 太 郎 筆

「かながわ子ども・子育て支援の実現に向けて」

神奈川県保健福祉局福祉・次世代育成部 部長

加 藤 芳 明



神奈川県保育会の皆様には、日ごろから本県の保育行政の推進に多大なお力添えをいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、今年度四月一日の県内の保育所入所待機児童は四一七人と現在の形で統計を取り始めた平成十四年度以降最多となりました。県所管域につきましても、昨年より一八一人増え、九三六人と同じく最多となりました。

このような状況の背景には、厳しい経済情勢が続いていることから、就業を希望する母親や育児休業後復帰を希望する母親が増加していることが指摘されております。

そして、近年の傾向として三歳未満の低年齢児が占める割合が増大しており、県所管域の待機児童の実に八十二%近くが三歳未満児でした。

こうした保育ニーズの増大に対応するために、県では「安心子ども基金」の活用を図りながら、保育所の緊急整備に取り組んでおり、市町村・保育関係団体の皆様のお力添えにより、平成二十二年度当初予算では県全体で三七〇〇名を超える定員増を見込んだところ です。

加えて、「低年齢児特化型分園」など、賃借方式を活用した一層の定員拡充に向けて、年度途中からの整備案件についても、市町村・事業者の皆様積極的に取り組みをお願いしてきています。ところが、お蔭様で、当初見込みを大幅に上回る定員増が期待される見込みを得られております。

どうか、引き続き、残りの期間で整備が完了できる案件がありましたら、速やかにご相談いただくとともに、進行中の整備案件につきましても、特に、低年齢児の定員枠の一層の拡大については是非ご検討、ご尽力をお願いいたします。

また、子どもを巡る問題といたしましては、児童虐待の問題が依然深刻です。児童虐待の相談件数は、政令・児童相談所設置市を除く県所管域では、平成二十一年度中に一六四二件と一昨年に比べて若干減少しましたが、相談件数の統計を取り始めた十一年度の三〇五件に比べると、約六倍となっております。

そして、相談件数の約四割を占める就学前児童は、体が小さく、自分から訴える力も弱いため、虐待が深刻化しやすく、早期発見が極めて重要です。

このような中で、保育所においては、児童虐待防止法に基づく通告義務に従い、虐待が心配されるお子さんについて、市町村の児童相談窓口や児童相談所に通告や情報提供をしていただいております。

また、虐待の再発防止という点でも、要保護児童対策地域協議会の一員として、ケースになつて親子を日々、見守り、支えてくださり、心配なことがあればネットワークの関係機関と連携して取り組んでいただいているところです。

紙面をお借りして、改めて御礼を申し上げますとともに、今後とも、日々、親子に接し、特にお子さんの心身の変化に常に目配り、気配りをいただいている保育所の皆様のご理解とご協力を引き続きよろしくお願いいたします。

最後になりますが、神奈川県保育会の皆様におかれましては、保育を通じて、神奈川県の子どものために一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

第 44 回

神奈川県保育事業大会

～すべての人が子どもと子育てに関わりを持つ社会の実現をめざして～

心配された前日からの雨も上がり、伝統の神奈川県保育事業大会が平成二十二年四月二十四日に神奈川県社会福祉会館にて開催されました。本年度より相模原市の六十一園が退会したために参加人数の減少が心配されましたが、当日は空席が殆ど見受けられずに会場には約七百余名の方々が集まり、大変活気ある大会となりました。



式典は真壁総務部長の司会により進行され、宮田副理事長による開会のことばの後、はなのおさなご斉唱、児童憲章の朗読が行われました。続いて主催者代表として都築理事長より「五十年の歴史を踏まえ、組織

の法人化が実現でき、一般社団法人としての第一回の記念大会を迎えることが出来ました。新たな出発に際し、大勢のご来賓の方々にご列席いただきお礼申し上げます。子ども達の健やかな成長と発達を見守る社会的な役割を果たすことを第一に考えて参りたい。」などのあいさつがなされました。その後、永年勤続表彰者の五十九名が読み上げられ、賞状と記念品が授与されました。また、厚生労働大臣表彰と神奈川県保育賞を受賞された方々にも記念品が贈呈されました。引き続き、来賓の十七名の方を代表して、加藤県福祉・次世代育成部長、国吉県議会議長、間宮町村会会長、松田児童福祉審議会委員長、平野養成施設協会会長よりそれぞれご祝辞を頂戴いたしました。式典は大変スムーズに運営され、予定時刻通りに諸星保育士会会長による閉会のことばにより終了いたしました。

休憩を挟み、保育会総会が開催され会員数二百九十園のうち委任状出席を含め二百十

園の参加があることにより、総会の成立が確認され議事が進行されました。議事は報告事項として平成二十一年度事業報告及び収支決算についてと平成二十一年度会計監査報告について。議案として平成二十二年事業計画及び予算(案)についてと役員改選について提案されました。報告事項では、監事より「適正に処理をされているが、残高証明の添付が望ましい」との意見が述べられました。また、議案への質問として、事業開始前に予算等を審議する総会の必要性などいくつかの質問がなされました。質問事項については、今後の企画運営委員会等で検討し後日報告することでご理解を頂き、各議案とも承認されました。なお、役員改選では、承認された三名の新任理事を迎えた話し合いの結果、新任理事長には引き続き都築理事長が選ばれ、総会においても承認されました。

午後からは三会場に別れ、各会場ともに熱気に包まれた中で研究発表が行われました。

第一会場

第一会場は参加者多数のため、会場をホテルキャメロットジャパンに移してふたつの発表がありました。

はじめに、横須賀市の二名の園長より「横須賀市(中核市)における保育所利用世帯の現状と動向について」地域の保護者支援の充実」と題して、市内の三十園で保育所利用世帯を対象にアンケート調査を実施した結果についての報告をされました。「①多くの外国人の在住 ②利用者家庭の経済的格差 ③在園の長時間化 ④離婚率が高く増加している」



などの現状認識を踏まえ、保育所の子育て支援力の向上（知識と技術の体得）と役割の重要性が、今後益々大きく期待されるとまとめられました。

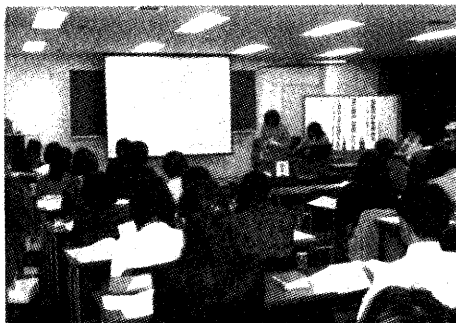
第二会場

第二会場は、「公立保育所の使命と地域社会での役割と実践を考える」とのテーマで発表がなされました。

次に、小田原市保育士会保育内容研究委員会より「配慮が必要な子どもの保育の充実（子どもへの困り感に気づくには）」と題し、現場の保育士対象のアンケート調査で「気になる子ども」と「その保護者」の対応に多くの保育士が悩んでいる実態を踏まえた実践報告を受けました。子どもに合った保育や必要とする配慮・支援について、地域との連携（県立養護学校連携部の指導員や小児科医院の臨床心理士により、多くの専門知識を学び指導や助言を受けており、日々の保育のなかで実を結んでいるという内容の発表でした。

はじめに、県保育会公立保育所専門委員会からテーマに沿った発表がなされ、各地区の委員が改定保育指針を実践しながら「保育力を活かす」「行政の人事異動を有効に活用し、協力と理解を深める」「学校、地域、関係機関との連携をとり柔軟な対応が出来る公立園」の良さを活かし、地域に開かれたネットワークの拠点となるよう継続的な研究を行い、保育の質を高めていきたいと発表されました。

た保育と教育を活かした計画「職員の事務量の軽減」「国の行政の一本化」を課題に幼児小中の連携を充実し就学に向け、より滑らかな移行をとの実践発表がなされました。



第三会場

第三会場では、三つの研究発表が行われました。

最初に、海老名市保育士会の「食育」たのしく、おいしく、みんなで一緒に食べようね」との発表がなされました。以前より行っている食育活動に加え研修を行い、食育への関心を高め家族団らんの大切さを考える機会にとアンケート調査を行ったとの報告がありました。アンケート調査を基に、今後の活動に繋がっていきたいとの前向きな思いが感じられ、最後に自作された「食育の曲」を披露され発表が終了いたしました。

次に、神奈川県保育士会保育内容研究会から「健康と安全」との発表がなされました。自分の身体を自分で守ることに注目し、運動あそびを毎日実施した園との前後期で比較調査を行った結果が報告されました。前期では違いは目立たないが、後期では怪我の総数に違いが見られ、運動あそ

びを取り入れていた方が身のこなしが上手くなった。大きな怪我の軽減も図れ、子どもの特性にもよい影響が出ているとまとめられました。

最後に、茅ヶ崎市保育士会から「食育について楽しく美味しく食べる環境づくり」との発表がなされました。食事のリズムをとり味わって食べ、食生活や健康に主体的に関わり、行事などに合わせた製作を行ってきたことなどの実践報告がなされました。牛乳パックで作製した足置きや柔らかい背もたれを付けると集中して食べられるようになったと、実物を披露されながらの発表がなされました。



第51回 関東ブロック

保育研究大会

～子どもの健やかな成長と発達を保障するために～

長いトンネルを抜けると何処までも続く緑色のカーペットのような田園風景が現れました。東京駅を出発するときには小雨模様でしたが、終着駅に着くとサンサンと日差しが降り注いでおり、水の都の異名を持つ新潟は予想を超える暑さで迎えてくれました。

平成二十二年七月六日から七日の二日間に渡り、なぜ関東ブロックなのかと不思議でもある新潟県新潟市に於いて、第五十一回関東ブロック保育研究大会が盛大に開催されました。神奈川県からは四十一名。全体では、千四百余名の人びとが会場の新潟市民芸術文化会館に集まりました。オープニングでは、パイプオルガンのコンサートが行われ、芸術文化会館専属のオルガンリストが美しい音色を披露してくれました。

開会式は、大会運営委員長でもある新潟県保育連盟理事長の歓迎のことばに続き、花のおさなご斉唱と保育関係物故者への黙祷、大会運営委員会副委員長でもある新潟県保

育士会会長による児童憲章の朗読。続いて、主催者を代表して、新潟県知事、新潟市長、関東ブロック保育協議会会長のあいさつの後、来賓を代表して小川益丸全国保育協議会会長のあいさつをいただきました。その後、来賓並びに主催者の紹介、感謝状贈呈が行われ、最後に新潟県保育士会副会長による「大会決議宣言」が読み上げられ式典が終了いたしました。



基調講演は、白梅学園大学学長・東京大学名誉教授の汐見稔幸氏より、「保育制度改革の方向性と今後の保育について」とのテーマで子ども子育て新システム等について解りやすく丁寧に、時には面白く

ご説明頂きました。その後の記念公演は、「わが家の親子コミュニケーション」このテーマで、翻訳家で新潟産業大学専任講師。あの北朝鮮に拉致され、奇跡の帰国をなされた蓮池薫氏よりお話を頂きました。生きるために仕方なく嘘で塗り固めた生活を余儀なくされるなど、とても過酷な境遇の中での親子の姿が話されました。終了の際には感動の拍手が鳴り止まず、とても素晴らしい講演でした。

記念講演終了後、次回の当番都県市の千葉市の皆様からあいさつをいただき一日目を終了いたしました。

二日目は、場所を朱鷺メッセとホテル日航新潟に会場を移し、特別分科会を含め九分科会に分かれ研究発表が行われました。私たち神奈川県代表として、第四分科会に横須賀市しらかば保育園の浜田和幸園長と横須賀市立追浜保育園の飯島恵美子園長による「地域の保護者支援の充実―保育所利用家庭、地域の子育て家庭にむけて―」。そして、



第八分科会には、神奈川県保育会・公立保育所専門委員会（鎌倉市立稲瀬川保育園・小林和代園長・藤沢市立浜見保育園・瀬川多佳子園長）による「公立保育所の使命と地域社会での役割―今後の公立保育所の役割と実践を考える―」をテーマに両会場で発表がなされました。また、第三分科会の議長を、茅ヶ崎市西久保保育園の岩澤貞之園長が務めました。

なお、一日目終了後に意見発表者と議長への激励会が現地の新潟で保育会主催で行われました。県内参加者全員が出席し、和やかな中にも大変活気ある会となり、法人化されて更に力強くなった絆を実感する事が出来ました。

第四分科会

第四分科会は、「地域の保護者支援の充実」というテーマに沿って三つの研究発表がなされました。

最初に、栃木県下都賀岩舟町立保育園より「子どもの豊かな育ちのために保育所の特性を活かした子育て支援」の副題のもと、地域連携での研究内容や実践例の発表がありました。保護者へのアンケート調査からニーズや悩み等の把握を試み、その中で課題とされた点について、保育所の特性を生かした親子参加型の行事の企画などの実践例を挙



げて、子育て支援との関連等について報告されました。

二番目に私たち神奈川県代表である横須賀市保育会から「横須賀市に於ける保育所利用世帯の現状と動向について―地域の保護者支援の充実―」と題して発表がなされました。保護者へのアンケートの検証結果を基に報告され、中核市として抱える課題と保護者支援への視点が述べられました。多岐に渡る問題点の報告と共に、ゼロ・一歳児の保育のニーズの増加傾向に着目し、三歳未満児の保育に、より専門性をもって取り組むことが保護者支援として大切な役割であることや児童の家庭環境格差・経済格差の認知や把握と対応が保護者支援に繋がること発表されました。

最後に、千葉県市原市杏保育園から「保育所でできる親子支援のあり方」と題して発表がなされました。子どものみでなく保護者自身が『親』となって成長していくための支援の研究と実践報告がなされました。アンケートに基づ

き保護者ニーズや現状を把握分析し、地域との繋がりの希薄化と子育て知識や家庭の教育力の低下が問題点として挙げられました。保護者自らの気付きを大切にする趣旨を生かし、実践として一日保育士体験を取り入れ、親・保育士双方に有効性があるとの考察が発表されました。

発表終了後、助言者で新潟県立大学准教授の植木氏より、保護者支援には様々な工夫があり地域の文化や特性等が基にあるが、どの地域でも可能性は同じであること。また、園の機能をフル活用して『繋ぎ屋』として他の地域資源に繋げていかれるようにすることこそが保育の専門性として大切であるとの助言をいただき分科会が終了しました。

第八分科会

第八分科会は、「公立保育所の使命と地域社会での役割」というテーマに沿って四つの研究発表がなされました。

最初に、私たち神奈川県

代表である公立保育所専門委員会からテーマどおりの題で発表がなされました。公立保育所における厳しい課題を念頭に置いて、県内の十六地域の委員が公立保育所の役割や実際の取り組みについて意見や情報の交換を行い、その内容を基にしてそれぞれの地域の公立保育所の取り組みなどの発表がなされました。



二番目は、千葉市野呂保育所から、同じくテーマどおりの題で発表がなされました。定員割れの地域と待機児童の多い地区との連携により、多様化している保育ニーズと子育て支援の取り組みが充実したとの実践例が報告されました。また、職員の資質向上の

実践として、民間保育所との合同研修や自己評価の推進に努力されているとの発表がなされました。

三番目に、埼玉県新座第七保育所より、同じくテーマどおりの題で発表がなされました。新座市の子育て支援の取り組みや保育方針など丁寧な説明がなされました。

最後に、新潟県の上越市立有田保育所より、「合併を通して公立保育所の役割を考える」と題しては発表がなされました。市が合併されたことで、合併後の職員の心のケアや交流から行い、公立保育所に求められている役割を把握して実践への取り組み過程を報告されました。

午後からは活発な質疑応答が行われ、最後に助言者で長岡市教育委員会総務課長の若月氏より、国の動向で保育所のあり方も問われているが、行政や民間保育園と連携をし、子どもが健やかに育つ保育を取り組んで欲しいとの助言をいただき分科会が終了いたしました。

新任保育士研修会

平成二十二年六月二十三日

に、神奈川県社会福祉会館にて新任保育士研修会が開催されました。参加人数は、六十余名を数え「新任職員に求められるもの、保護者支援って何？」と題して、横浜女子短期大学教授の亀谷美代子氏から丁寧に解説していただきました。



した。現場に即した接遇や保護者支援、職員間の連携についての講義に加え、グループ討議も行われました。今年度初の研修事業でしたが、研修部の活躍により神奈川県の新任保育者が素晴らしい成長を遂げられることに期待しています。

保青專門講座
I

平成二十二年九月七日、神奈川県

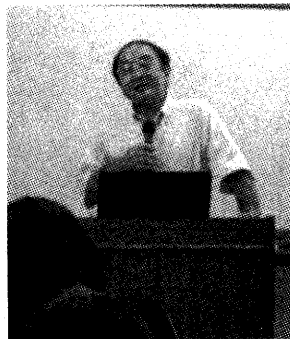
社会福祉会館において、「保育専門講座Ⅰ」が開催されました。残暑が続き、汗を拭きながらの研修となりましたが、会場には七十数名の参加者が集まりました。

「保育はあせらなくて、ゆつくり受けとめることから始まる。対話で紡ぐ豊かな保育」と題して、山梨大学人間科学部幼児教育コース教授の加藤繁美氏より講義を受けました。

日本において一九九〇年代に入る頃「児童虐待」という現象が社会問題化し、それから二十年ほどの間に相談対応数は四十倍弱に増大している。子育てが不安という親が増えている。「先生達は保育の中で子どものつぶやき、子どもの発見を書き留めていられますか?」子どものそれぞれの思い、発見を共感し適度に答えてあげる。説教型、不定型は子どもに好かれない大人が共感する事で思想、知識へと成り立っている。一人ひとりの思いを共感する事の大切さを具体的な事例を通してのお話ししたのでハツとさせられ、思わず自分の保育を振りかえさせられました。

また、「気になる子どもを気にしている保育士ではありませんか」と

言われ、今まさに五歳児保育をどうしたらと悩んでいた私たちは先生の講義に引き込まれていきました。五歳児が幼すぎる、二歳児が落ち着かない。これらは繋がっているんですよ。すべてのカギは二歳児の保育子育てにあり、『自分づくり』の道筋を保障してあげる事。二歳児を中心とする幼児期前期の子ども達と、応答的で対話的な関係を切結ぶ事が出来るなら、子どもの『自分づくり』に大きな歪みが生じる事は少ない。



「第二の自我」を形成させていくには子どもが出す「自我」の世界を『受け止めては、切り返す』『受け止めては、意味づけ直す』という関係を根気強く続けて行く事が大切です。

自分づくりを苦悩している子どもに、あなたがあなたであつて良いと支えられる保育士であり意識的、組織的、計画的に専門家として頑張つてほしいと心強い励ましの言葉を頂き、明日からの保育を頑張つて行こうと思う力強い気持ちで湧いて来ました。

神奈川県保育会 民間保育所経営問題専門委員会

神奈川県保育会の専門委員会のひとつとして民間保育所経営問題専門委員会が活動しています。委員会では、40 余名の会員が4つの分科会に分かれ研究をしたり、委員会全体で様々な課題への討議などを行っております。老若男女、様々な方々が和気あいあいと活動している大変有意義な委員会です。県保育会の会員ならどなたでも参加できますので、興味のある方はふるってご参加下さい。

代表は、萩原副理事長（伊勢原市・大原保育園）ですが、詳しいことは幹事である山本理事（秦野市・やまゆり保育園）または、保育会事務局までご連絡下さい。皆さまのご参加を心からお待ちしております。

神奈川県保育会 創立 50 周年記念大会 開催のお知らせ

神奈川県保育会は、本年 50 周年を迎えました。これも一重に先輩諸先生方のご苦勞とご活躍があったからこそ。そこで、保育会では今までの感謝と今後の一層の発展・飛躍の契機となるよう、皆さまと一緒に 50 周年のお祝いを致します。詳細は、追ってご連絡致しますが、下記の開催予定日等を手帳にご記載頂き、お忘れにならないようご注意くださいませ。

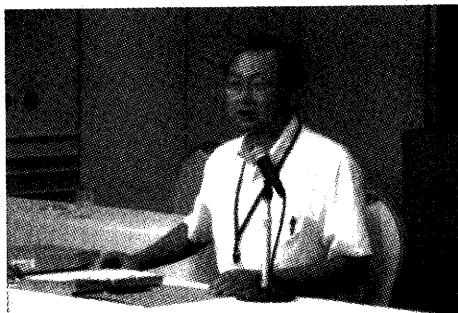
平成 23 年 2 月 26 日 (土) 横浜ベイシェラトンホテル&タワーズ 5 階 日輪にて

県・市町児童福祉主管課長との 連絡協議会

今年度は梅雨明けと同時に、猛暑日が続いておりました。その日も例外でなく夏空に太陽がキラキラと輝き、顔中から汗が吹き出す程の暑さでしたが、会場に入り、やっと一息付けた思いでした。

今年度の県・市町児童福祉主管課長と委員との連絡協議会は、平成二十二年七月二十八日にホテルキャメロット・ジャパンにて開催されました。当日は、神奈川県より次世代育成課の船本和則課長のご参加をいただき、また十五の市や町の児童福祉主管課長、そして三十三名の保育会委員が参加し、総勢四十九名の出席となりました。

この連絡協議会は、平成三年から始まり、政令市を除く市と町の主管課長と保育会委員が集まり、諸課題について共通の認識を深めるとともに、県内各地区の状況などについての情報や意見の交換を行い、



保育の充実と進展に資することを目的に毎年一回開催されています。

当日は定刻どおりに、真壁総務部長の進行で会が始まりました。相馬副理事長の開会のことばに続き、主催者を代表して都築理事長よりご出席の方々への感謝の念と有意義な会になるようにとのあいさつがありました。その後、出席者全員の自己紹介が行われ、議題に入りました。

第一部の議題(一)として、「神奈川県における保育の状

況と国の動向について」と題

し、船本課長より講演いただきました。配布された冊子「かながわぐるみ・子ども家庭応援プラン」を用いて「①計画改定の基本的な考え方②主な取組事業③県における子ども・子育てを取り巻く現状」のご説明をしていただきました。また、その後、「①

県所管域の保育所入所待機児童数の状況②県の子育て支援施策③国から出された子ども・子育て新システムの基本制度案要綱」について、各項目毎に丁寧なお話しがありました。その後、休憩をはさみ、都築理事長の進行により質疑応答の時間が設けられました。市町児童福祉主管課長や保育会委員より多数の質問が出され、船本課長より、より詳細な説明がなされました。参加者の熱心な意見交換が行われ、盛会裏に議題(一)は、終了いたしました。

議題(二)として、神奈川県保育会創立五十周年記念大会の開催について、宮田副理事長より説明が行われました。

「五十周年を祝うとともに、

功労のあった方々に感謝し、すべての子どもの幸せを願い、今後の発展・飛躍の契機とすることを目的に記念大会を開催いたします。ただいま準備を進めておりますので、各市町のご理解とご協力をお願いいたします。」との、案内がなされました。

議題(三)として、萩原副理事長より、九月に開催予定の関東ブロック保育事業連絡協議会で本会より議題提案をしている「保育士の専門性の向上に関する取組と処遇の改善における考え方について」等について各市町へアンケート依頼の協力をお願いしました。

議題としては、神奈川県保育会の事業概要説明も予定されておりましたが、時間により資料の配布のみとさせていただきますました。しかしながら、県の状況や国の動向について十二分に意見交換がなされたことは、全般にわたって目的通りの大変有意義な第一部の連絡協議会となりました。



第二部は、富田顧問から開会のあいさつを頂き、穏やかな雰囲気の中で意見交換会が行われました。最後に榊居副理事長より充実した会であったとの感想を頂き、名残惜しく第二部の幕が閉じられました。

県、市町、そして保育会との連携・協力こそが、子ども達の輝く笑顔をつくり、明るい未来に繋がることと参加者全員で確信した会となりました。

目指しましょう！
「生まれてきてよかった。」
「生み育ててよかった」と実感できる神奈川県を！

平成二十二年度

関東ブロック保育事業連絡協議会

平成二十二年九月九日から十日にかけ、食の都とも言われている静岡県静岡市に於いて、関東ブロック保育事業連絡協議会が開催されました。

開催趣旨は、「保育関係者が各々の立場から今日の課題を持ち寄り、相互理解を深め、関係機関・団体とより一層の連携強化を図るとともに、効率かつ効果的事業の運営方策を導くために各組織別により研究・協議するもの」とされています。参加者は、各都

市の保育協議会代表や事務局、保育士会や保育主管課、社協職員等と規定されており、総勢百十三名の方々が参加されました。神奈川県からは正副理事長、総務・広報の両部長、保育士会の合わせて九名が参加し、各都県に分かれて神奈川県を取り組みや課題など、各都県市の方々と意見の交換を行いました。

部会は、保育部会・保育士

部会・主管課部会・リーダー育成部会の四つに分かれており、各都県の討議内容の議題は次のとおりでした。

保育部会：子ども子育て新システムや保育士の専門性の向上と処遇改善など十一議題
保育士部会：就学への連携と保育要録、資質向上のための研修の取組など九議題

主管課部会：発達障害児等の保育に対する支援や人材確保など四議題

リーダー育成部会：保育協議会の組織のあり方やリーダー育成への取組など三議題

二日目は、初日に行われた各部会での報告と講演会が行われました。講演会の講師は、加治正之・静岡市保健所長で「生活習慣と子どもの成長」との演題でお話しを頂きました。標準成長曲線の説明から始まり、睡眠や運動の大切さ

や食事の上手な取り方など、科学的な実証を含めて詳しくご講演いただきました。当たり前ですが、生活習慣がいかに大切かを改めて実感しました。



研究大会のお知らせ

平成二十三年度の第五十二回関東ブロック保育研究大会は、平成二十三年七月十四・十五日の日程で、千葉市（幕張メッセ）で開催されます。

神奈川県は参加割り当て人数は四十七名となっておりますので、皆様のご参加をよろしくお願い申し上げます。

また、平成二十三年度の第五十五回全国保育研究大会は、同じく十一月二・四日の日程で、横浜市で開催されます。

緊急報告

平成二十二年九月三日に福岡市保育協会主催で「子ども・子育て新システムを考える」シンポジウムが開催されました。新システム策定において事務局長を務めている泉健太内閣府大臣政務官が講演しました。来年の通常国会への提出ありきで、詳細は全くの白紙。児童福祉法第24条の市町村の義務を外し、応諾義務に頼ろうとしています。この制度が本当に子ども達のためになるのか？。各組織に因われず、関係する方々が検討し、早期に訴えていく必要性があると感じました。

編集後記

世界的に異常気象を起こすとされる「ラニーニャ現象」が発生した影響で、日本でも最高気温が観測史上一位を記録した地点が多数あった今年の夏。例年ならスキの穂が伸びてトンボが舞っていてもいい頃ですが、尚暑さが続いています。運動会シーズンを迎え元気に体を動かして遊ぶ園児たちの暑さ対策、体調管理なども例年以上に配慮されていることでしょう。

神奈川県保育会も、昨年度一般社団法人として新たな一歩を踏み出し、今年度は五十周年という大きな節目を迎えています。企画運営委員一同、二月二十六日に開催される五十周年記念大会に向けて力を合わせて準備に取り組んでいます。広報部でも過去の資料、写真などに目を通しながら先輩先生方の大変な御努力を知り、今日の保育会を支えていただいていることに感謝しながら記念冊子の編集を進めています。

